

令和 2 年度 県立潮来高等学校自己評価表

目指す学校像	人間性豊かな自立した生徒の育成 ～どのような時代であっても一生涯、自立した人生を歩める人間を育成する～		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<p>丁寧な学習指導により、基礎学力の養成と学習習慣の定着を図っているが、成果は十分とは言えない。より一層の指導法の工夫・改善により、学習意欲の向上を図っていく。</p> <p>卒業生の進路決定率は 98% と高いが、100% をめざしたい。LHR や総合学習あるいは総合探究、様々な進路行事を通し、保護者の協力も得ながら、生徒の進路意識の一層の向上を図る必要がある。</p>	1 基礎学力の定着	<p>① 「主体的・対話的で深い学び」の指導を研究し、授業改善を図り「わかる授業」の実践に努める。</p> <p>② 個の適性・資質・進路希望に応じた学習指導の充実を図り、「確かな学力」を育む。</p> <p>③ 授業と課題等を結び付け、自主的・自発的に学習に取り組む姿勢を育てる。</p> <p>④ 基礎・基本の徹底と反復を図り、義務教育段階の学習内容の確実な定着を図る。</p>	B
<p>生徒の気持ちに寄り添った生徒指導を心がけた結果、概ね落ち着いた生活状況にある。ただ、時折、軽率な言動をとる生徒もいるので、ルールやマナーを遵守できる規範意識をさらに植え付けたい。</p>	2 社会を意識したキャリア教育の充実	<p>① 適時に適切な進路行事を実施し、勤労観・職業観を育むとともに社会性を養う。</p> <p>② 丁寧な個別面談を通して、社会との関わり方を考えさせ、将来の進路設計を促す。</p> <p>③ キャリア・パスポートの活用により、人間関係形成・社会形成能力等を育成し、自己実現につなげる。</p>	B
<p>部活動では全国大会で活躍する部がある一方、全体の加入率は 4 割程度にとどまっている。部活動や学校行事を通した人間的成長を促したい。</p>	3 豊かな人間性の育成	<p>① 生徒とのコミュニケーションを大切にし、心情理解を図り、信頼関係を構築するとともに、問題行動の早期発見・早期解決に努める。</p> <p>② 「道徳」「道徳プラス」の時間を要として学校教育活動全体を通して、「豊かな心」を養う。</p> <p>③ 登校指導等を通し、生徒との触れ合いのなかで、挨拶の励行や身だしなみの指導を図る。</p> <p>④ 学校行事や部活動の充実を図り、忍耐力や思いやり、協調性などを育む。</p>	B
<p>働き方改革については、さらに推進していかなければならない。超過勤務時間の縮減や業務の効率化で生まれる余裕を、生徒への指導の充実につなげたい。</p>	4 学科や地域の特色を生かした教育	<p>① 学科や地域の特色を踏まえ、実社会・実生活との関わりを重視した体験・探究活動を設定する。</p> <p>② 地域の行事やボランティアなどに関わる機会を創り出す。</p> <p>③ 検定試験や資格取得を推奨し、生徒の活躍の場を創り出す。</p>	A
	5 信頼される学校づくりの推進	<p>① 保護者や地域との連携を密にし、教育活動への理解と協力を得る。</p> <p>② 授業公開や学校新聞・HP を活用し、教育活動の様子を社会に向けて積極的に発信する。</p>	C
	6 働き方改革	<p>① ベテラン・中堅・若手でチームをつくり、スキルを組織的に継承し、業務の効率化を図る。</p> <p>② 働き方改革で生み出された心身の余裕を生徒の指導に生かしていく。</p>	C

別紙様式 2 (高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
国語科	基礎学力の定着を図る。	基礎・基本の徹底を繰り返し、学習内容の確実な定着を図る。	A	生徒が ICT 機器を活用する授業の展開や自宅学習時の対応が課題である。今年度の休校を受けて、動画作成など生徒の学びを確保できるような力をつけていく必要がある。
		課外・課題添削・家庭学習指導について工夫改善をする。	C	
		日本漢字能力検定を全3回実施し、2級・準2級の合格者を出す。3級の合格者については全3回の合格率の平均が30%を越えるよう努める。	B	
	読書習慣の定着を図る。	教務部図書館担当と連動し、興味を喚起する本の紹介と図書館利用の推進をする。	A	
	社会に通用する国語力が身に付く指導を行う。	場に応じた適切な話し方・聞き方・表現力を養う活動を取り入れる授業を実践する。	B	
		各種研修会に参加し、自己研鑽に努めるとともに、教科内で情報共有を図る。	B	
地歴公民科	基礎学力の向上を図り社会的事象に興味・関心を持たせる。	地図や副教材などの資料を ICT で積極的に活用しアクティブラーニング的指導を実践することで、「わかる」授業の充実を図るとともに、知識・理解の幅を広げ、基礎力の向上を図る。	B	Google のフォームを活用した小テストやパワーポイントを用いた授業など徐々に、ICT に対応している。次年度は今以上に活用し、生徒の学力定着に努める。
		問題演習や課外を通して、自主学習を促し、受験に対応できる応用的な学力を身に付けさせる。	B	
		各種研修会に積極的に参加して情報を収集し、生徒に還元していくことに努める。	B	
数学科	基礎基本の定着を図る。	基本的な計算の問題演習を授業時間に実施する。定期考査で出題し、定着の度合を測る。	B	教科指導法の研修にて ICT を活用した。これらを導入し授業をよりわかりやすくする。進学課外や補習の機会を増やす。また医療看護対策数学など、進路に応じて課外の講座を増やす。
		ノート、問題集やプリントを定期的に提出する機会を設ける。	B	
		定期考査不振者に対して補講を実施し、学力の底上げをしていく。	C	
	「わかる授業」への改善に努める。	授業内容、方法、進度などについて教科内で研究協議する。	C	
		数学科各教員が幅広く生徒の指導に関わっていくように協力しながら進めていく。	C	
		提出物等で生徒の理解を測り、授業に反映していく。	B	
		各種研修会に参加し自己研鑽をするとともに、教科内で情報共有を図る。	C	
目的に合わせた個別指導の充実を図る。	進学・就職に数学を必要とする生徒に対応した個別指導を随時行う。	B		
	希望者対象の課外を実施し、資質・能力をさらに伸ばしていく。	B		
理科	生徒の実態を踏まえた指導により、基礎学力の定着を図る。	既習の知識・技能を、必要に応じて復習し、「分かる授業」を行う。	B	今年度も理科が苦手な生徒が多いことを注視し、復習、小テストによる理解度の確認、パワーポイント・動画視聴等の ICT 活用を積極的に行い、全体の底上げを図った。次年度に向け、ICT 活用が理科の学習で効果的となる場面を、より吟味する。
		ノート、プリント等を提出する機会を設け、普段の授業の取り組みを適切に評価する。	A	
		小テストを実施し、学力の定着状況を随時確認する。	A	
	自然科学に対する興味・関心、探究心を育む。	身近な出来事・ニュースなど、授業に関連する話題を提示し、自主的に学習に取り組めるような指導を行う。	B	
実験・観察に主体的に取り組む態度を育てる。	グループの生徒同士で協力し、主体的な活動が行えるように指導する	C		
	教科内で情報共有を図ったり、授業を見学したりするなどして授業力の向上に努める。	B		
保健体育科	生徒が主体的に学び、活動する態度を育成する。	時事的内容や視聴覚教材 (ICT) を取り入れ、わかりやすい授業を展開する。	B	新型コロナウイルスの影響で活動種目の制限や体育的行事の中止があったが、最善をつくすことができた。ICT を活用した授業を行い、視覚的な部分から授業の理解に努めることができた。
		生徒一人一人の課題設定を明確にし、解決のための行動が取れるよう支援する。	C	
	集団で行動するを通して規範意識、または帰属意識を育てる。	体育の授業のみならず、体育的行事で集団行動を積極的に行うことにより、集団の中での自己の役割を理解させ、クラスや学校の一員であることを意識させる。	B	

別紙様式2 (高)

芸術科	生徒の実態を踏まえた魅力ある授業を通して、芸術を愛好する心情の育成に努める。	生徒の興味・関心にそった幅広い題材を取り上げることで、基礎的な知識や技能の定着を図る。	B	B	限られた活動の中でも生徒の興味関心に沿った内容を吟味し、作品展示や演奏発表の仕方を工夫して生徒が主体的に活動できるような場を設ける。
		芸術を通じ、豊かな人間性や社会性を育み、生涯を通して芸術を愛好する心情や生きる力を育成する。	A		
		発表・展示の機会を積極的に設け、主体的・創造的な態度や表現する喜びを養う。	B		
英語科	生徒が主体的に取り組める課題設定を工夫する。 生徒の実態をふまえ、基礎基本の充実に努める。	ペアワークやグループワークなどによる「聞く・話す」活動を多く取り入れ、表現する力を育む。	B	B	コロナウイルス感染症の影響でペアワークやグループワークは頻繁に行うことはできなかった。
		基礎基本となる英単語の小テストを定期的実施し、語彙力の定着を図る。	A		
商業科	基礎学力の向上を図る。	習熟度に応じたクラス編成や課外活動を実践し、基礎学力の向上をはかる。	A	B	コロナの影響により、検定をはじめとして行事関係が計画通り実施することができなかった。また、後半からTTの授業が実施することができなかった。 潮来市や筑波大学と連携し地域ビジネス科の取り組みの一端を、潮来市の発表会を通して市民の方々にも知ってもらう機会を得ることができた。これからも、市と連携を図りながら、地域ビジネス科の取り組みを発信できるように連携を深めていく。
		ビジネス基礎・会計・情報処理分野においてTTで授業を行うことにより、学力向上をはかる。	C		
	各種検定の合格率を高める。	各種検定（簿記・情報処理・ビジネス文書・電卓）において、1級合格者を出す。	B		
		総合選択科目において検定合格率を高める。	C		
地域へのPRに努める。	学校説明会での魅力ある授業を通して、地域へのPRをはかり、志願者を増やす取り組みをする。	B			
家庭科	基本的知識・技術の定着を図る。	放課後の補習授業を実施し、技術の定着と向上を図る。	A	B	今年度は新型コロナウイルスによりインターシップ等の地域交流活動が制限された。外部との交流の機会をもつと共に職務や地域への理解を深められるよう授業や家庭クラブ活動を工夫する。 資格取得を通して、継続力や忍耐力を養うことを目指す。
		授業研究に取り組み、指導の工夫改善を図り、指導力を高める。	B		
	選択コースの授業充実と資格取得に努める。	少人数指導によるきめ細かな指導を行い、家庭科技術検定・ビジネス文書実務検定・介護職員初任者研修などの資格取得に努める。(100%の合格を目指す)	B		
		意欲的に課題研究に取り組み、成果をまとめ、発表する。	B		
	家庭クラブの活性化に努める。	家庭クラブ活動を活性化させるために、調理講習会や花いっぱい運動などを行いクラブ員の意識を高める。	B		
		夏期休業中などを利用しホームプロジェクトを実施することで、生徒自ら課題を発見・設定し、解決する経験を積む。	A		
地域に根ざした活動をする。	インターンシップを通して、地域の人々と交流するとともに職務の理解を深める。	D			
	施設でのボランティアに参加する。	E			

別紙様式2 (高)

教務部	生徒の学習意欲及び基礎学力向上を図る。	年2回(6月と11月)の校内での授業公開を積極的に推進するとともに、研修会を実施し教員の授業力向上に努める。	B	C	ICT機器の授業での活用方法についての相互授業研修は必須。効果的な活用で生徒の学力向上や家庭学習の定着につなげたい。 ホームページを活用した中学校や地域への情報発信、学校新聞や学校案内で分かりやすく学校の様子を伝える。 保護者との情報伝達方法の確認と徹底。 デジタルにはない本ならではの魅力を伝える。
		授業方法を工夫し「わかる授業」の実践に努め、「意欲的に学習に取り組んでいる」と答える生徒の割合が70%以上となることを目標とする。	C		
		平日に家庭学習をする生徒の割合を60%以上とし、基礎学力の向上を図る。	D		
	学習指導体制の確立を図る。	成績不振の生徒には、学年や教科と連携しながら、計画的に補習を行い学力の向上に努める。	B		
		授業を大切にすることを高める。家庭と連絡を密にとりながら、適切な指導を行うことで、学習意欲の向上につなげる。	C		
		新入生への図書オリエンテーションを実施し、授業での図書利用の支援を行う。	B		
	図書館利用者数の増加を図り、活性化に努める。	静かで明るい読書環境を整備し、生徒の興味関心をひくテーマによる展示を行い、利用者数を増加させる。	B		
		購入図書希望アンケートを実施し、図書館の充実を図る。	C		
		学校説明会や学校公開を充実させ、中学生や保護者、中学校の先生方に本校の魅力を伝える。	C		
広報活動を充実させ、本校への志願者数を増やす。	学校新聞を年間5回以上発行、関係中学校や地域に配布する。	D			
	ホームページを効果的に活用し、学校の魅力を広く伝える。	B			
進路指導部	進路意識の向上を図る。	進路行事を適切な時期に行う(進路講話、進路ガイダンス、進路別バス見学会、職業人講話、卒業生を囲む会、進路希望調査、進路セミナー)。	B	B	生徒の進路意識の向上が図れる進路行事内容の検討と指導の工夫が課題である。 急激な社会状況の変化にも対応できる進路指導の研修やICTを利用した進路指導ができる環境設定委が課題である。
	キャリア教育を実践する。	インターンシップ、看護体験、職場見学、企業訪問、オープンキャンパス、自衛隊機搭乗体験、職業紹介動画、社会労務士による講話などを適切に実施する。	C		
	基礎学力の向上と自己理解をめざす。	課外授業、公開模擬試験、適性検査、一般常識テスト、秘書検定を実施する。 個に応じた面接指導、進路相談を実施する。	C B		
	学年・保護者との連携を図る。	就職進学説明会、各学年進路指導部員間の連携、保護者面談時の進路相談を実施する。 進路行事をHPへ掲載する。PTA会報へ進路状況を掲載する。	C B		
生徒指導部	基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上を図る。	「朝のあいさつ運動」を通して、あいさつの励行や身だしなみの指導を行う。	B	B	朝のあいさつ運動を継続して、挨拶の励行や基本的な生活習慣の確立を図る。 いじめ未然防止のため日常の生徒観察を十分に行い、生徒の変化に早期に対応する。 交通安全に対する意識を高めさせ、事故防止を図る。
		生徒指導集会を実施し、髪型や服装の正常化等規範意識の向上を図る。	B		
		全教員が普段からの「声かけ」を行い、生徒との信頼関係を築く。	B		
	生命・身体の安全確保を基本とした生活指導を実践する。	登下校時の交通指導を実施し、交通事故防止を図る。	C		
		携帯・スマホ利用のルールとマナー遵守を促し、トラブルの未然防止に努める。	C		
		月毎に被害調査を実施し、生徒間トラブルの早期発見、対応を図る。	B		
外部機関との連携を強化する。	関係機関と協力し、地域の祭礼等の巡視を行う。	C			
	地域からの苦情や連絡に真摯に対応し、速やかに行動する。	B			
	学警連や県東地区の生徒指導部と情報を共有して、生徒指導を実践する。	C			
特別活動部	部活動の活性化を図る。	定期的な顧問会議の開催と各部顧問間での情報共有・共通理解を図る。	B	B	コロナの影響で、校内外の多くの活動が中止や制限のある中で実施せざるを得なかったが、最善を尽くすことはできた。 キャリア・パスポートについては、各学年とも連携して活用していきたい。
		生徒会活動との連携を図り、部活動を活性化させるための活動を促進する。	B		
	ボランティア活動を奨励する。	多くの生徒がボランティア活動に参加できるように、各種ボランティアの案内・掲示と呼びかけを実施する。	C		
	生徒会役員の自発的活動を促進する。	生徒会による校外・校内での積極的な活動を促す。また各種委員会もできる限り活動をしてもらえるように環境を整備する。	B		
キャリア・パスポートを活用する。	生徒が各々、特別活動の履歴を整理し、自己を省みることで人間関係形成・社会形成能力等を育成し、自己実現につなげる。	C			

別紙様式2 (高)

渉外部	保護者と教職員が連携し、信頼される学校づくりに努める。	P T A役員会等を通して連携を密にし、教育活動への理解と協力を得る。	B	B	校内の事業については、コロナ禍に対応しながら、活動を進めることができた。高P連関係事業や地元地域の行事などはほとんどが中止となり、活動できなかつた。次年度も状況に応じて、活動を進めていきたい。
		保護者面談以外にも、学校公開やP T A総会など、保護者がより参加しやすい計画を立てる。	B		
	地域や関係機関との連携を図る。	P T A広報誌やHPを活用して、学校の教育活動の様子を地域に積極的に公開する。	B		
		地域の関係機関と連携してマナーアップキャンペーンを実施する。	D		
保健安全部	生徒の健康管理意識を高める。	「保健だより」を毎月発行する。	A	B	コロナの影響により、行事の日程調整が難しかったが、コロナ対策として消毒液、非接触型体温計などの整備をすることができ、感染予防に努めることができた。 今後も、不測の事態を見据えながら対策できるようにする。
		ポスターを掲示したり資料を配付したりすることで、思春期特有の疾病や季節毎の感染症について理解させ、自身の健康について考える機会を増やす。	B		
		健康診断の受診率100%を目指す。	B		
	防災・安全教育の徹底を図る。	関係機関と連携した防災訓練を実施する。	C		
		救急救命講習を計画し、緊急時に対応できる体制を整える。	E		
	環境美化の意識高揚に努める。	HRをとおしてゴミの削減と分別の徹底を呼びかけるとともに、清掃用具の定期的な交換を実施する。	A		
		問題生徒の早期発見と支援に努める。	問題を抱える生徒と面談し、問題解決の支援をする。		
	保健安全部会を定期的実施し、問題生徒の面談計画と支援策を協議する。		A		
	校内の支援体制を整備し、保護者・中学校・外部関係機関との連携を図る。		B		
	教育相談研修の実施と教師の資質向上を図る。	心理テストを実施し、支援に活用する。	B		
「相談室便り」を定期的に発行し、掲示や配付をし、相談室の活動を周知徹底する。		A			
スクールカウンセラーの有効な活用をする。	スクールカウンセラーの専門性を活かした生徒支援と職員への生徒支援方策の助言を活かす。	A			
第一学年	基礎・基本学力の定着を図り、主体的に学習活動を行う態度を育てる。	日々の授業を大切に、予習・復習を心掛け、主体的に学習に取り組む態度を養う。	C	C	新型コロナウイルス感染症拡大により、通常の高校生活スムーズにスタートできない状況ではあったが、年度末に向けて少しずつ落ち着きが見られるようになってきた。全体として、それぞれの目標達成には、まだまだ課題が多く、より具体的な方策やアプローチが必要だと感じた。今後も学年一丸となって連携を密に取り、生徒・保護者対応を真摯に取り組んでいきたい。
		課外授業や各種テストを奨励・実施し、基礎・基本学力の定着・向上を図る。	C		
	基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上を図る。	「あいさつ運動」を通して、自分から進んであいさつができる習慣を身に付ける。	B		
		時間厳守・生活リズムの確立等を柱に高校生らしい基本的な生活習慣を確立する。	C		
	積極的な資格取得・部活動参加を促す。	各種資格・検定を奨励・実施し、合格に向けての補講や課外も随時行う。	C		
		特別活動部・各部顧問とも協力し、部活動への積極的加入を推進する。	C		
	豊かな人間性と社会性を身に付けさせる。	学校行事やホームルーム活動に積極的に参加させ、コミュニケーション能力を高め、豊かな人間性を育む。	B		
		「総合的な探究の時間」・「ポート授業」等を通して郷土愛を深め、社会性・協調性を育む。	C		
保護者・地域との連絡を密に取り、学校の信頼関係を構築する。	保護者との連絡・連携をスピーディーかつ密に行うことで、諸活動・問題の早期対応・解決に対応する。	C			
	学校諸活動の情報を保護者・地域に発信し、また、地域のボランティア活動に参加するなどして、本校の教育活動への理解・協力を求める。	C			

別紙様式2 (高)

第二学年	基本的生活習慣の確立と規範意識の向上を図る。	頭髮・服装の指導や遅刻防止の指導を継続的に行い規範意識の向上を図る。	C	B	インターンシップや修学旅行中止など、生徒の体験学習の機会が十分にとれない1年であったが、学年スタッフの努力や外部との連携を通し、生徒の主体的な学びの時間を確保することができた。また、NIEや手帳の活用を通し、表現力・時間管理能力が身についた。今後は、基礎学力の向上に加え、生徒が自主的に学習に取り組む姿勢とプレゼンテーション力などを伸ばし、進路決定につなげたい。
		あいさつを通し、互いを認め合う基盤作りをおこなう。	C		
		チャイムスタート、チャイム終了を徹底し授業時間を大切にす姿勢を強化する。	B		
		手帳などを利用し、集中して話を聞く態度、メモを取る態度を養う。	B		
	基礎学力の定着と進路意識の向上を図る。	授業内容を理解するため教え合い活動などを取り入れ、主体的に取り組む姿勢を養う。	B		
		自分で考え、考えを共有し合う姿勢やプレゼンテーションの力を強化する。	B		
		課外授業や実力テストを実施して基礎学力のさらなる定着を図る。	B		
		キャリア・パスポートなどを利用し、将来の職業などについてしっかり考える機会を設ける。	C		
	豊かな人間性と社会性を身に付けさせる。	清掃を徹底させ、奉仕活動や環境美化に貢献できる心を育む。	C		
		修学旅行や体育祭などの集団活動を通して、互いを尊重する態度を育てる。	B		
		『道徳プラス』により、道徳的判断力や実践意欲を強化する。	C		
	保護者との連携を図り信頼関係をつくる。	保護者との連絡・連携を密にし、問題に対して学年全体で早期に対応する。	B		
確実な情報伝達のための工夫をするとともに、保護者の要望や意見に対しては丁寧に対応し、学校教育への協力を求める。		B			
第三学年	基本的生活習慣の確立と規範意識の向上を図る。	頭髮・服装の指導を継続的に行い規範意識の向上を図る。	B	B	コロナ禍でさまざまな活動が制限される中、試行錯誤の一年であった。最大の目標である全員が希望の進路に進むべく一年間学年スタッフ一丸となって取り組むことができた。ただ例年に比べて説明会等ができなかったのは残念だった。生活面では遅刻の指導を受ける者が多く、意識付けがもっと必要だった。
		「欠席・遅刻・早退」の数を前年度より減少させるよう努める。	C		
		集会時の集合時間を厳守させ、集中して話を聞く態度を養う。	C		
	基礎学力の定着と進路意識の向上を図る。	授業を大切にす、主体的に取り組む姿勢を養う。	B		
		各種資格・検定を積極的に取得させる。	C		
		課外授業や実力テストを実施して基礎学力のさらなる定着を図る。	C		
	進路指導の充実と、全生徒の進路希望を実現させる。	進路指導部と連携し、進路説明会、模擬面接等をできるだけ多く開催する。	B		
		オープンキャンパス、体験学習、会社見学に積極的に参加させる。	C		
		進路相談の個別指導を適宜実施し、必要に応じて保護者を交えて行う。	B		
	保護者との連携を図り信頼関係をつくる。	保護者との連絡・連携を密にし、問題に対して早期に対応する。	B		
		確実な情報伝達のための工夫をするとともに、適宜家庭訪問を行う。	C		

※ 評価規準：A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できてない